

雅風会たより

第13号



珊底羅大将 (川村雅則作)

目次

- ◆ はじめに
- ◆ 第62回仏教美術展報告
- ◆ 初めての模刻作品 ～ 模刻 1 ～
- ◆ あ・ら・か・る・と

2026年1月10日 編集・発行 宗教芸術院「雅風会」
東京都品川区大崎 3-3-10

URL: <http://www1.cts.ne.jp/~h-1butsu/>

◆ はじめに

「雅風会たより」第13号発行の運びとなり、皆様のご厚情の賜物と心から御礼申し上げます。

おかげさまで雅風会は8年目を迎えました。出会いあり別れありの7年間でしたが、「良い別れは、新しい出会いをつれてくる」の言葉通り、偶然とは思えないような出会いから、多くのことを学び、助けていただきました。どちらかという、新しい出会いがあつて初めて過ぎた別れの意味に気づくという方が近かつたかもしれません。

雅風会発足当初からの会員で、毎回欠かさず京都仏教美術展に出品されていた故鈴木庸夫さんの作品展が、2月に奥様の主催で開催されます。詳しくは本誌3ページの「あ・ら・か・る・と」、または雅風会ホームページの「お知らせ」をご覧ください。

また、今回より仏像の模刻についてのシリーズが始まります。かねてより前島毅氏の作品の中に模刻への強い思いを感じておりましたので執筆をお願いし、3回にわたり掲載させていただくことになりました。皆様どうぞお楽しみに。

新しい年がスタートしました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。 合掌 (岩場記)

◆ 第62回仏教美術展報告



第62回仏教美術展が昨秋の11月7日（金）から9日（日）まで開催されました。

今回は大作に挑戦中の方たちの出品が次回に繰越しになったこともあり、当会からは例年より少ない出品数、7点でした。

一方、品川教室（東京都）、長岡教室

（新潟県）に加えて新しく荒川教室（東京都）、横浜教室（神奈川県）の生徒さんが仏教美術展デビューとなり、仏手、仏頭、救世観音立像、釈迦如来坐像と教本の課題作品が見事な仕上げで輝いておりました。個



人台はおなじみの出品者による3作品。不動明王二童子像、馬頭観音立像、水天像です。

会場には力作がズラリ、美術展は盛会裏に終了しました。

次回第63回仏教美術展も皆様とお会いできますように。

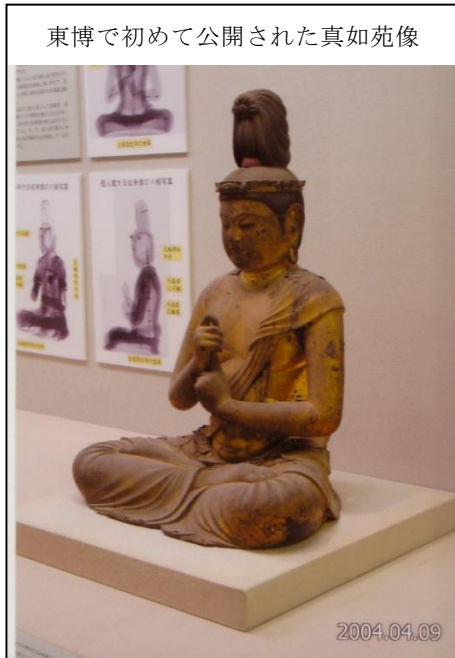
合掌 (岩場記)



◆ 初めての模刻作品 ～ 模刻 1 ～ （前島 毅）

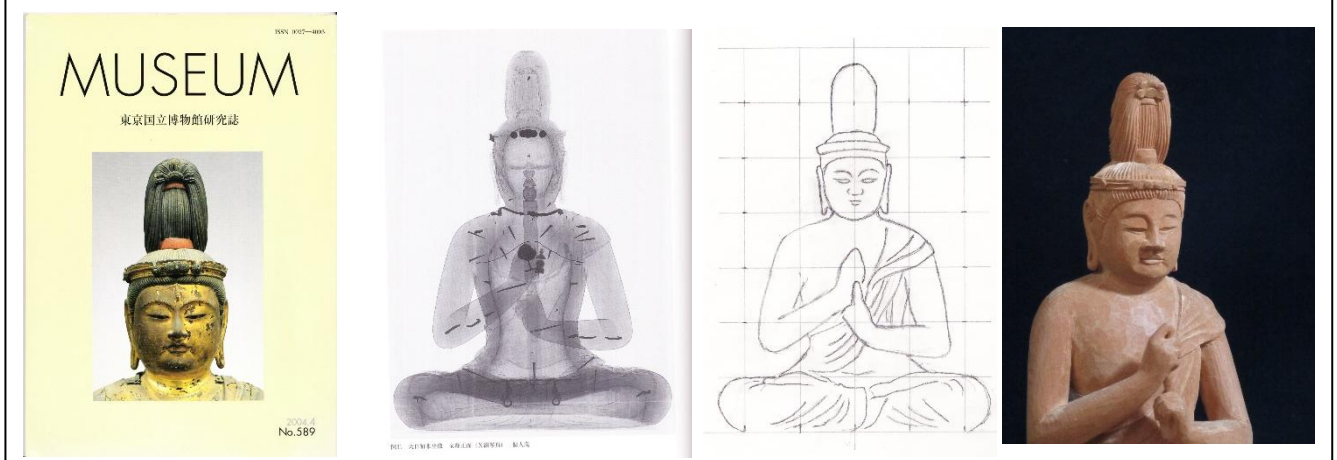
私は定年退職後の趣味として仏像彫刻を選び、平成 13 年に渋谷月曜教室に入門しました。地紋彫りから順を追って川村先生からご指導を頂き、教科書作品を彫り進めました。

教科書を離れて初めて模刻に挑戦したのは平成 16 年で、現在は半蔵門ミュージアムに常設展示されている運慶の大日如来坐像です。高く結い上げられた髻の後ろ姿が美しく、何としても模刻したいと思ったのでした。



私がお像と出会ったのは前年のことです。外資系のサラリーマンだった男性が古物商でこの像を数十万円で購入し、山本勉先生に鑑定を依頼されたのがこの年でした。この年の暮れに目黒区の区民講座で山本先生（当時先生は東博の教育室長）の講義を拝聴する機会があり、先生は学会に発表される直前で高揚されており裏話等伺うことが出来ました。公式発表は翌年 4 月で平成館大講堂の講演会に渋谷教室の仲間 4 人で聴講に出掛けました。この仏様は同時に本館 15 室に展示され、今では夢ですが自由に写真撮影ができたのです。

（下図左より）山本先生の鑑定論文が掲載された「MUSEAM」589号（2004.4刊） / 図面の輪郭線描画に用いた X 線透過写真（出典 MUSEAM589号） / 初めて描いた製作図面 / 模刻像の頭部写真



このお像が一躍有名になったのは 4 年後で、男性がクリスティーのオークションに出品し三越の美術部が 1,430 万ドルで落札して国外流失を防いだことです。三越に購入を依頼したのは宗教法人真如苑で、今ではこのお像は国の重要文化財に指定されています。当時の為替レートでも真如苑が

支払ったのは三越への手数料を含めて十数億円ですが、現在の為替では20億を超えていることでしょう。山本先生は当然東博で購入する交渉をされたはずですが東博の予算では折り合わず、男性は平成のシンデレラ物語を演じたのです。統一教会ではありませんが宗教法人は資金が豊かですね。真如苑は他にも日産自動車の東村山工場の跡地や京都にある小川治兵衛作庭の流響院を購入しています。

下世話な話が長くなりましたが、このお像を含めて運慶作とされる3体の大日如来坐像が現存しています。平成23年に金沢文庫でこの3体が一緒に展示されたことがありました。一番大きいのが円成寺のお像で、運慶20代のデビュー作です。最小が光得寺のお厨子に入ったお像です。3体は全て東寺講堂のご本尊をお手本に彫られたと考えられますが、特に光得寺のお像は光背・台座を含めて東寺像を運慶が模刻したものと思われまます。円成寺像が彫られたのは安元元年～2年(1176年)が確かですが、他の2像は納められた樺崎寺の縁起から真如苑像が健久4年(1193年)、光得寺像が健久10年(1199年)頃と推定されています。そしてこの2年前、建久8年に運慶工房で東寺講堂の脇に仮設小屋を建て諸仏を一体ずつ運び出して大規模に修理した記録が残っています。光得寺像が東寺像を忠実に再現した可能性の根拠です。現在東寺講堂のご本尊は後世の作ですが、私が魅せられた真如苑像の高く結い上げられた髻は建設当時から残る東寺の菩薩像に共通する特徴です。

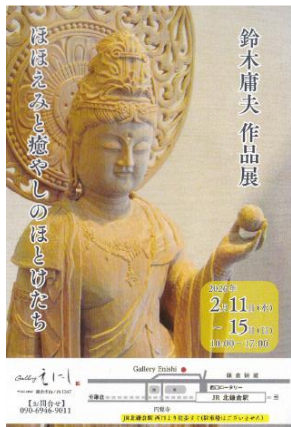
運慶が模したとされる東寺講堂の本尊大日如来坐像は焼失している。参考として現存する同時期の講堂菩薩(金剛薩埵)像の頭部写真



出典 「日本彫刻史基礎資料集成 平安時代 重要作品篇一」

*** あ・ら・か・る・と ***

◆ 鈴木庸夫作品展のお知らせ



雅風会発足当初からの会員で、毎回欠かさず京都仏教美術展に出品されていた故鈴木庸夫さんの作品展が、北鎌倉で開催されます。

主催者鈴木明子氏より：

京都の展覧会が近づくと、真剣に、でも楽しげに彫刻刀を手にしていた夫の姿を思い出します。このたび、私たちがかつて暮らした北鎌倉で、回顧展のようなものを企画しました。夫の遺した作品をご覧いただけましたら幸いです。

日時：2026年2月11日(水)～15日(日) 10:00～17:00

場所：Gallery えにし JR北鎌倉駅西口より徒歩すぐ

※詳細は雅風会ホームページのお知らせをご覧ください。

◆ 第63回仏教美術展のお知らせ

日時：2026年11月6日(金)～11月8日(日) ※前日の5日(木)は、作品搬入および会場設営日。

出品お申し込みの詳細は、7月発行予定の第14号でお知らせします。

研鑽会、教室、賛助会の皆様、個人での出品を希望されている方、お申し込みをお待ちしています。

◆ 会費納入のお願い

- ・研鑽会会員の皆様は、4月になりましたら2026年度年会費のお振込みをお願いいたします。
- ・賛助会の年度は「7月～翌年6月」です。会費のお振り込みについては次号でお知らせしますので、引き続きご継続いただけますよう、よろしくをお願いいたします。

(第13号編集責任：岩場)

第14号は7月に発行の予定です。